

『まおいスローライフ創出プロジェクト』実施計画概要

1 住宅市街地まるごとコーポラティブ化プロジェクト

1) プロジェクトの目的

- ・本プロジェクトは、マオイ地域における田園型スローライフの実現を求めるニーズに対して、
 - 1) 既成市街地における未利用地や既存ストック（北海道住宅供給公社が開発した南幌町のみどり野圃地、集合住宅など）
 - 2) マオイ丘陵地の住宅地化が進むエリア、を対象に、専門家や行政、地域住民、地元住宅業者、学生などによる「(仮称)マオイ地域づくり再生研究会」を設置し、ワークショップを実施(2回)しながら、“住まいとまちづくりの連携”した地域イメージとその実現化方策について検討するものである。

2) プロジェクトの内容

現地視察(雪なし環境のビデオ等撮影)、行政担当者(企画・住宅・都市計画)へのアンケート及びヒアリングによる“マオイ地域”における住まいとまちづくりの現況と課題、地域イメージ、実現化方策の「枠組み(案1)」の整理(11月中旬、1回)

行政担当者との協議による「(仮称)マオイ地域づくり再生研究会」の構成メンバー候補の検討・公募・選出・委嘱(11~12月)

ワークショップの実施(1月~2月、2回、10~20名/回×2回)

)現地視察(雪あり環境)、「枠組み(案1)」の提示、意見交換

)1回目のWSの意見を反映した「枠組み(案2)」の提示、意見交換

「(仮称)コーポラティブ型住まいとまちづくり夢プラン」のとりまとめ(3月)

2 田園・芸術体験型長期遊住プロジェクト

1) プロジェクトの目的

- ・本プロジェクトは、全国の都市住民が、マオイ地域における田園型スローライフを体感することにより、リピーター・移住者になってもらうことを視野に入れ、これまで長沼町が主体となって取り組んできた修学旅行の農家民泊による受け入れを、一般の家族連れやグループにも裾野を広げ、地域全体とフィールドとした“田園・芸術体験型ロングステイ・ツーリズム”へと発展させるため、「コンセンサスの形成」と「旅行代理店やマスコミへのPR」を目的としたワークショップ(2回)を実施する。

2) プロジェクトの内容

【展開方針】

コンセンサスの形成

- ・長沼町における現在の修学旅行受け入れの実態を、“成功体験”として4町で共有し、(できれば)マオイ地域あげでの取り組みとする、というコンセンサスの形成を図る。
- ・具体的には、長沼町の協議会以外のプレイヤー候補および他の3町のプレイヤー候補・中核に

なってくれそうな人たちが、(できれば生で、ダメならビデオ等で) 成功体験を共有し、“我が町でも取り組みたい!” という意識を醸成する機会を持つ。

- ・HPによると、10/10-11 新居浜西高校 95 名, 10/26-27 湘南学園高校 40 名を受け入れ予定のため、それを対象とした視察もしくはビデオ撮影を行う。

「プラス」のプログラム検討(こちらはできれば…上記とセットで実施するイメージ)

- ・現在、長沼町に訪訪している修学旅行を「もう半日」or「もう1泊」させるためのプラスのプログラムをマオイ地域としてピックアップし、組み上げる。
- ・具体的には、現在の<初日:昼食 受入レセプション 民泊先で体験。2日目:早朝出発>の基本的な受け入れプログラムに付加できるような“プラス”の地域滞留プログラム<何がいくらで何時間かかる・地域イベント等>を、マオイ地域として全てピックアップ・再編集してつくりこみ、情報発信や実際の現場への反映に供与させる。

旅行代理店やマスコミへのPR

- ・旅行代理店の企画担当者やマスコミの人たちに、長沼町の【農家民泊】成功実績(及び、できればマオイ地域をあげての受け入れ体制)をPRすることで、「外すことのできない北海道の農家民泊修学旅行エリア」としての認知を上げると同時に、「家族連れやグループ旅行を農家民泊にて受け入れ、長期滞在に展開させる」のための方策を練る。
- ・具体的には、旅行代理店企画担当者やマスコミ等に、()長沼町に修学旅行で来た引率の先生や企画旅行代理店、民泊受入農家、役場担当者といった人物の声と実際の修学旅行受け入れのビデオ映像等を見せる、()民泊実地体験+プラスプログラムを体験してもらう、ことによって、PR+モニタリングを実施する。

【展開イメージ】

修学旅行のビデオ撮影(10/26-27 湘南学園高校、1回)

行政担当者との協議によるワークショップの人選・進め方等の協議(11~12月、1回)

旅行代理店やマスコミなどへの打診・事前調整(11~12月)

ワークショップの実施(1月~2月、2回、10~20名/回×2回)

()ワークショップ1(コンセンサスの形成)

()ワークショップ2(旅行代理店やマスコミへのPR)

とりまとめ(3月)

3 地域資源活用テーマコミュニティ育成プロジェクト

1) プロジェクトの目的

- ・本プロジェクトは、“マオイ地域における新旧住民の交流を広げる”ことを目的に、以下の3つの視点での展開を図る。

町内の新旧コミュニティの交流

マオイ地域全体での交流

(上記の発展として)マオイ地域でのテーマコミュニティの可能性・方向性の検討

2) プロジェクトの内容

【手段】

- ・地域資源を活かした「食」を通じて交流を深めるとともに、新旧コミュニティの交流に関する

意見交換会を開催する。(2回実施予定。11月、1月)

1回目は、食を通じた交流とともに意見交換を行い、「新旧コミュニティ」の問題・課題を探る。
2回目は、1回目の問題・課題をふまえたミニ講演会・事例紹介(現時点では内容未定)を開催し、さらに意見交換をする。

第1回、第2回の開催を通じて得られた新旧コミュニティの意見、テーマコミュニティに関する意見、プロジェクトを通じて明らかになった問題・課題についてまとめ、委員会に報告する。

【対象】

・対象は、以下の3タイプのコミュニティ・グループとする。

) 「新コミュニティ」で地域活動しているグループ(転入後10年未満程度の方々)

) 「旧(既存)コミュニティ」で地域活動しているグループ(地元出身の方々)

) 「新コミュニティ」と「旧(既存)コミュニティ」が連携して地域活動しているグループ

第1回、第2回ともに同じ参加者を想定。(第2回目は、第1回目参加者が、友人・知人などを誘って頂くことも期待)

グループでの参加を基本。(1グループ3名程度)

参加人数は、1町6名程度×4町=参加者合計24名程度を想定。(第2回目は、より多くなることを期待)

選出は、各町役場に依頼し、地域の実情に応じて柔軟に実施。

4 複合型地場産業担い手育成プロジェクト

1) プロジェクトの目的

・本プロジェクトは、マオイ地域における様々な資源(人・物・技術)を活用し、田園型ライフスタイル産業とでもよぶべき新産業を創造するため、「(農業や加工、食や観光などを対象とした)地域のビジネス・コミュニティのリーダーによるコミュニティとネットワークづくり(まおい田園ビジネス・クラスターづくり)」を目的とした交流会(サロン)を開催する。(2回/年)

2) プロジェクトの内容

行政担当者(産業振興等)へのヒアリングによる、“マオイ地域”における地場産業の現状と振興上の課題の整理(11月中旬、1回)

行政担当者との協議による(農業や加工、食や観光などを対象とした)地域のビジネス・コミュニティ候補の整理・公募・選出(11~12月)

ワークショップの実施(1月~2月、2回、10名/回×2回)

)交流会(サロン)1:リーダー等の自己紹介、話題提供(地場産業の現状と振興上の課題)、ビジネス講演会(地域内リーダー、または地域産業振興マネジャー)、簡単な意見交換、(必要に応じて)起業セミナー

)交流会(サロン)2:リーダー等の自己紹介、話題提供(交流会1の報告)、ビジネス講演会(地域内リーダー、または地域産業振興マネジャー)、簡単な意見交換、(必要に応じて)起業セミナー

成果品のとりまとめ(3月)